

日本の高齢化対策の国際発信に関する研究

研究代表者 近藤 尚己（東京大学大学院医学系研究科）

研究要旨

世界保健機関（WHO）が進める **Healthy Ageing** の世界戦略をはじめとした、高齢者保健にむけた世界的な動きが加速している。世界で先駆けて高齢化を迎え、その対応のためのシステムをつくってきた日本からの発信を増やし、世界の施策に貢献すること、また世界的な動向から日本が学ぶべきことを理解し日本の施策への実装の一助とすることを目的とした。**WHO Consortium on Healthy Ageing** 委員に就任し、関連する活動に従事した。**WHO** の出版した **Integrated Care for Older People (ICOPE)** における、地域資源の活用や行政・市民・研究を連携づけるガバナンスの視点での課題点を抽出し、レビュー論文として出版した。日本国内の高齢者の健康格差に関する英文書籍を出版する。台湾での国際カンファレンスにおいて日本の認知症対策について報告した。日本公衆衛生学会でのシンポジウム「高齢化する世界：日本からの国際発信と世界からの学び」を開催した。東日本大震災とソーシャル・キャピタルについて文献レビューし英文書籍として出版する。地域コミュニティの環境と高齢者の健康に関する研究成果や、その評価のための研究プロジェクトのウェブサイト、研究者向けデータ活用てびき資料等を英語化してオンラインで公表した。

<分担研究者>

近藤克則 千葉大学・予防医学センター・
教授/国立長寿医療センター・
老年学評価研究部・部長
尾島俊之 浜松医科大学・医学部・教授
相田潤 東北大学・大学院歯学系研究
科・准教授
斉藤雅茂 日本福祉大学・社会福祉学部・
准教授

A. 研究目的

世界保健機関（WHO）が 2015 年に出版した高齢化に関するレポート：**World Report on Ageing and Health** では、高齢者の多様性への対応・格差・差別（エイジズム）・社会変化・高齢者の権利等に着眼し、今後の高齢化対策の指針が示され

た。**WHO** はまた、2020 年を目標として「高齢化と健康に関する世界戦略と行動計画」の策定を進めている。

日本は高齢者保健に関して先進的な取り組みをしてきた。公的介護保険制度や後期高齢者医療制度、最近では地域包括ケアシステムの推進、認知症施策総合戦略の策定などである。ところが、言語等の壁によりその経験や制度、政策に資するエビデンスはあまり諸外国に知られておらず、**WHO** をはじめとした国際機関におけるプレゼンスも高いとは言い難い。

これまで、全国約 30 の自治体と連携して日本老年学的評価研究（**JAGES**）を進めてきた。この研究を基盤として日本の高齢者保健、特に介護予防や健康格差

対策の面で研究と実践を行ってきた。

JAGESにより、地域づくり型の介護予防施策や行政保健師のスキル育成法に関する実証研究や、地域における官民参加型研究を推進し、上記 WHO レポートの作成に貢献した WHO 神戸センターと共同してきた。そのノウハウや成果は「地域包括ケア見える化システム」の参考とされ、また、日本医療開発研究機構「介護予防活動のための地域診断データの活用と組織連携ガイド」等の研究班出版物として発信された。

本研究は、上記のような申請者らの実績と専門性を生かして日本の高齢者保健に関する施策や取り組み、政策に資するエビデンスをレビューして国際的に発信するとともに、海外の研究チームや実務機関との連携を深めることで、高齢化に関する世界的な取り組みに貢献することを目的とした。

B. 研究方法

2年目の H30 年度は、WHO・アジア諸国との連携と国際的アジェンダへの貢献（近藤尚己）、高齢者の健康の社会的決定要因の現状に関するエビデンスの国際発信（近藤克則）、認知症ケアに向けた環境整備のあり方についての国際発信（尾島）、災害時の高齢者対策についての発信（相田）、国内の大規模調査 JSGES のエビデンスの国際発信（斉藤）を行った。

（倫理面への配慮）

個人を対象とする調査ではないため、倫理審査の対象外である。

C. 研究結果と考察

1. Healthy Ageing 戦略への日本の貢献可能性と課題の整理（担当：近藤尚己）

地域包括ケアの推進にかかわるエビデンスや概念を国際的に普及するための取り組みを進めた。また、国際的な動向から日本が学ぶべき事項として H29 年度に整理した結果から、ageism 対策や社会的処方への推進等を国内の高齢者保健施策に位置づけるべく国内での普及に努めた。

具体的には、WHO・Global Strategy and Action Plan on Ageing and Health の推進状況評価指標作成への参加、WHO Clinical Consortium on Healthy Ageing 委員（social care 評価等へアドバイス）、WHO の Integrated Care for Older People (ICOPE) の課題点を日本の経験に基づき指摘した総説出版、国内の Healthy Ageing アジェンダの進捗状況評価レポート作成、国内シンポジウムでの ageism や社会的処方の紹介、国際支援機関との連携によるアジア近隣諸国への地域包括ケア普及可能性の検討等を行った。

2. 日本老年学的評価研究の国際発信に向けた研究（担当：近藤克則）

Non-communicable Disease (NCD) の社会疫学と日本における健康政策等について、国際発信することを目的とした。これらについての文献レビューを行い出版した書籍『近藤克則編：健康の社会的決定要因-疾患・状態別「健康格差」レビュー。日本公衆衛生協会，2013』の英語での出版を企画し、Springer 社に提案した。審査の結果、同社からの Social Determinants of Health in Non-

communicable Diseases: Case Studies from Japan」と題する書籍として出版することとなった。

3. Age and Dementia Friendly Cities に関する研究 (担当: 尾島俊之)

高齢者と認知症の人にやさしいまちの推進に資する評価指標や日本における取り組み等について、国際健康都市会議において国際的な情報発信を行った。また、シンポジウム「高齢化する世界: 日本からの国際発信と世界からの学び」をWHOの協力を得て行った。「地球規模の高齢化におけるWHOの取り組み」、「世界に貢献できる日本の地域包括ケアの取り組み」、「エイジズム(年齢差別)と社会的処方」、「日本と世界での認知症にやさしいまちづくりの取り組み」の報告を行った。

4. 災害のフェーズと高齢者における健康の社会的決定要因: 国際発信に向けた実証とエビデンスのレビュー (担当: 相田潤)

災害時の対応は世界的な公衆衛生課題であり、世界の高齢化を迎え、高齢者への対応法の普及が喫緊の課題となっている。災害時は、防波堤などのハードによる対策だけでなく、人々の協力などのソフト面での対策の必要性が言われている。そこでソーシャル・キャピタルが災害対策に有効かどうか文献をレビューした。その結果、震災の発生前から発生後の復興期に至るまで、ソーシャル・キャピタルは災害の被害を減少させたり、復興を早めるために大切な役割を担っていると考えられた。災害前の近隣住民のつ

ながりを壊さない集団移転や、仮設住宅内での交流や社会参加をうながす活動が被災者の健康に貢献していると考えられた。一方で、ジェンダー面での配慮によりソーシャル・キャピタルの負の影響を除くことも必要だと考えられる。

2019年内に英国の出版社から、日本における健康の社会的決定要因に関する書籍を出版する予定であり、その中の1章で本研究の知見を報告する。

5. JAGES プロジェクトによる大規模縦断研究に基づく高齢者の健康長寿の関連要因に関する主要な知見 (担当: 斉藤雅茂)

主にJAGESの知見を整理し、心理・精神的健康や口腔の状態だけでなく、社会参加や社会関係・ソーシャルサポート、ライフコースを通じた社会経済的地位、居住地域の市民参加や社会的凝集性、互酬性などのソーシャル・キャピタルが高齢者の健康長寿と関連していることを確認してきた。これを受け、本年度は国際発信のためにそれらをまとめたスライドセットの英文翻訳および英文でのレポートを公表し、2018年度に公表された論文をレビューした。

追加のレビューからは、週7回以上の浴槽入浴習慣がある高齢者の間で要介護リスクが有意に低いこと、近隣に食料品店が少ないと認識している人の間で死亡リスク1.6倍程度高い傾向にあること、テレビの健康番組を見る女性の間で死亡率が10%程度低い傾向にあること、ライフラインサービス停止経験など物的・環境的な貧困は1.7倍死亡リスクを上昇させること、自治体の都市度を問わない

全国版「要支援・要介護リスク評価尺度」が開発されたことなどが新たに報告されていることが確認された。

これらは次年度に英語のプレスリリースとして出版する予定である。

D. 結論

JAGESをはじめとした国内での研究成果を、複数の国際学会、国連機関での会議等の場、英文の論文やモノグラフ、書籍等で発信した。アジアへの展開の可能性が具体化するなど、期待以上の進展もあった。

最終の令和元年度は、これらの出版物や海外での議論の場を活用して一層の普及を図る。今後 health ageing の枠組みが普及する中で、国内の政策も国際的な動向に対応していく必要が見込まれる。国際動向を国内へ発信する取り組みを引き続き行う。また、各国の研究者や実務機関との交流を深め、特に JAGES のアジア諸国への展開を模索する。

E. 健康危険情報

該当なし。

F. 研究発表

1. 論文発表

Saito J, Haseda M, Amemiya A, Takagi D, Kondo K, Kondo N. Community-based care for healthy ageing: lessons from Japan. *Bull World Health Organ.* 2019;in press.

Sato K, Viswanath K, Hayashi H, Ishikawa Y, Kondo K, Shirai K, Kondo N, Nakagawa K, Kawachi I. Association between exposure to health information

and mortality: Reduced mortality among women exposed to information via TV programs. *Soc Sci Med* 2019;**221**:124-31.

Saito J, Kondo N, Saito M, Takagi D, Tani Y, Haseda M, Tabuchi T, Kondo K. Exploring 2.5-Year Trajectories of Functional Decline in Older Adults by Applying a Growth Mixture Model and Frequency of Outings as a Predictor: A 2010-2013 JAGES Longitudinal Study. *J Epidemiol* 2019;**29**:65-72.

Kondo K, Rosenberg M, Kondo N, Cable N. *Advancing universal health coverage through knowledge translation for healthy ageing: Lessons learnt from the Japan Gerontological Evaluation Study.* Kobe: World Health Organization 2019.

Amemiya A, Saito J, Saito M, Takagi D, Haseda M, Tani Y, Kondo K, Kondo N. Social Capital and the Improvement in Functional Ability among Older People in Japan: A Multilevel Survival Analysis Using JAGES Data. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2019;**16**:1310.

Zaito M, Kawachi I, Ashida T, Kondo K, Kondo N. Participation in Community Group Activities Among Older Adults: Is Diversity of Group Membership Associated With Better Self-rated Health? *J Epidemiol* 2018;**28**:452-7.

Tsuji T, Kondo K, Kondo N, Aida J, Takagi D. Development of a risk assessment scale predicting incident functional disability among older people: Japan Gerontological Evaluation Study. *Geriatr Gerontol Int* 2018;**18**:1433-8.

- Tani Y, Suzuki N, Fujiwara T, Hanazato M, Kondo N, Miyaguni Y, Kondo K. Neighborhood food environment and mortality among older Japanese adults: results from the JAGES cohort study. *Int J Behav Nutr Phys Act* 2018;**15**:101.
- Tani Y, Kondo N, Noma H, Miyaguni Y, Saito M, Kondo K. Eating Alone Yet Living With Others Is Associated With Mortality in Older Men: The JAGES Cohort Survey. *J Gerontol B Psychol Sci Soc Sci* 2018;**73**:1330-4.
- Sasaki I, Kondo K, Kondo N, Aida J, Ichikawa H, Kusumi T, Sueishi N, Imanaka Y. Are pension types associated with happiness in Japanese older people?: JAGES cross-sectional study. *PLoS One* 2018;**13**:e0197423.
- Saito T, Kondo N, Shiba K, Murata C, Kondo K. Income-based inequalities in caregiving time and depressive symptoms among older family caregivers under the Japanese long-term care insurance system: A cross-sectional analysis. *PLoS One* 2018;**13**:e0194919.
- Nagamine Y, Kondo N, Yokobayashi K, Ota A, Miyaguni Y, Sasaki Y, Tani Y, Kondo K. Socioeconomic Disparity in the Prevalence of Objectively Evaluated Diabetes Among Older Japanese Adults: JAGES Cross-Sectional Data in 2010. *J Epidemiol* 2018. Epub ahead of print
- Imai Y, Nagai M, Ohira T, Shirai K, Kondo N, Kondo K. Impact of social relationships on income-laughter relationships among older people: the JAGES cross-sectional study. *BMJ Open* 2018;**8**:e019104.
- Honjo K, Tani Y, Saito M, Sasaki Y, Kondo K, Kawachi I, Kondo N. Living Alone or With Others and Depressive Symptoms, and Effect Modification by Residential Social Cohesion Among Older Adults in Japan: The JAGES Longitudinal Study. *J Epidemiol* 2018;**28**:315-22.
- Higuchi M, Suzuki K, Ashida T, Kondo N, Kondo K. Social Support and Access to Health Care Among Older People in Japan: Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). *Asia Pac J Public Health* 2018;**30**:425-36.
- Haseda M, Kondo N, Takagi D, Kondo K. Community social capital and inequality in depressive symptoms among older Japanese adults: A multilevel study. *Health Place* 2018;**52**:8-17.
- 斉藤雅茂 (2018) 「〔特集：高齢者の健康格差〕健康格差生成のプロセス；JAGES縦断研究の結果から」『Aging & Health (公益財団法人 長寿科学振興財団)』86 : 10-13.
- Saito Masashige (2019) Healty aging: IADL and functional disability. Kondo Katsunori (ed) Social Determinants of Health in Non-communicable Diseases, Springer. (in press)
- Saito Masashige, Kondo Naoki, Oshio Takashi, Tabuchi Takahiro, Kondo Katsunori (2019) Relative Deprivation, Poverty, and Mortality in Japanese Older Adults: A Six-Year Follow-Up of the JAGES Cohort Survey. *Int. J. Environ. Res. Public Health*, 16(2): 182
- 斉藤雅茂 (2019) 「市区町村担当職員向け研修会の内容例」「住民向け研修会の内容例」「ボランティア候補者向けワークショップの内容例」近藤克則編

著『住民主体の楽しい通いの場づくり；地域づくりによる介護予防進め方ガイド』日本看護協会出版会（印刷中）

（書籍）Katsunori Kondo ed.: Social Determinants of Health in Non-communicable Diseases: Case Studies from Japan. Springer Series on Epidemiology and Public Health. Springer Nature Singapore Pte Ltd. (in press)

2. 学会発表

Toshiyuki Ojima (2018) Efforts for Population Aging including Age and Dementia-Friendly City in Japan. 2018 International Healthy City Conference. Taoyuan (Taiwan), 26 June 2018.

野崎慎仁郎、ローゼンバーグ恵美(2018)「地球規模の高齢化におけるWHOの取組（シンポジウム 高齢化する世界：日本から国際発信と世界からの学び）」『第77回日本公衆衛生学会総会』。福島県福島市。2018年10月25日

斉藤雅茂(2018)「世界に貢献できる日本の地域包括ケアの取組（シンポジウム 高齢化する世界：日本から国際発信と世界からの学び）」『第77回日本

公衆衛生学会総会』。福島県福島市。2018年10月25日

齋藤順子、近藤尚己(2018)「エイジズム（年齢差別）と社会的処方（シンポジウム 高齢化する世界：日本から国際発信と世界からの学び）」『第77回日本公衆衛生学会総会』。福島県福島市。2018年10月25日

尾島俊之(2018)「日本と世界での認知症にやさしいまちづくりの取組（シンポジウム 高齢化する世界：日本から国際発信と世界からの学び）」『第77回日本公衆衛生学会総会』。福島県福島市。2018年10月25日

相田潤。「岩沼プロジェクト：災害時のコミュニティ・エンパワメント」。第77回日本公衆衛生学会総会シンポジウム14参加型研究の最新動向：現場に即役立つエビデンスづくりにむけて：(2018年10月25日)

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他